

やまもも保育所・お別れ遠足

やまもも保育所 芳我 岳陽

3月30日(水)、お別れ遠足に行ってきました。

今年度も残りわずか。先日卒園式を終えた年長児達は、いよいよ新1年生として新しい生活が始まります。お別れは寂しいですが、今まで沢山遊んだ仲間と最後の思い出作り。この遠足も、だいぶ前から皆が楽しみにしていました。

行先は「なたぐもやま」。片貝県道を横断し、田んぼ道をひた進んだ先にある、秘密の雑木林。散歩中に偶然見つけました。地主の方にも許可を頂き、以来何度か遊びに行っていて、子ども達のお気に入りスポットになっています。

「なたぐもやま」という名は、子ども達が命名しました。某鬼退治アニメにでてくる地名です。実は筆者が休みの日にかぎって、「なたぐもやま」に出掛けていたみたいなので、私は本日が初の入山。子どもたちが遊んでいる写真を事前に見ていたの、内心楽しみでした。

当日は薄曇りでしたが、寒くも暑くもない絶好の遠足日和。お弁当は給食さんと職員に作ってもらい、後ほど家徳公民館まで届けてもらい、そこで食べる計画です。

9時45分、小さい子達に見送られて、いざ出発。

まずは玄関を出て、裏の駐車場を通り、片貝県道を目指して、テクテク歩きます。道路を歩く時は、人は右側通行。端を歩くことを、普段の散歩の時から繰り返し伝えていますが、それでも小さい子は、道の真ん中に行ってしまうがち。そんな時は、排水溝の蓋をレールに見立て、「電車になってレールの上を通るよ」と声を掛ければ、みんな「ガタンゴトン！ガタンゴトン！」と、楽しく端を歩いてくれます。

さて、終点の業務スーパーにたどり着き、片貝県道の横断歩道を渡ります。そして脇の路地に入って少し行くと、一気に視界が開け、見渡す限りの田園風景に。ここからは土手道を一直線。目的地を目指します。風を受けながらのんびり…ではなく、ここに来ると大体いつもみんな全力疾走。子ども達は回復が速いからいいですけど、大人は結構キツイ(汗)

そんなこんなで、いよいよ目的地の、「那田蜘蛛山(ここからは平仮名だと読みづらいので漢字表記でいきます)」に到着。

おお！これが那田蜘蛛山か！何というか、時代劇で主人公が刺客と対峙しそうな森の中、はたまた、もののけ〇でシン神様が現れるシーンに出てきそうなどいうか…。下草がきれいに刈り取られ、余分な木が伐採されて開けた森の中は、ちょうどよい明るさ。倒れた木が、木股にもたれ掛かって斜めになっていたり、倒木の先端が、地面から浮いて、プールのジャンプ台のようになっていたり、まさに天然のアスレチック。



こういう場所に来ると、遊び方が分からなくて困る子どもは、まずいません。斜めになった木によじ登ったり、シーソーのように倒木にまたがってみたり。ミミズをたくさん見つけて観察する子。ドングリを拾う子。枝を剣にして朽ち木と戦う子…。皆が夢中になって思い思いに遊んでいました。



さて、ここでこの日誕生日を迎えたI君を、皆でお祝いすることに。自然豊かな森の中、みんなで誕生日の歌を歌ってお祝いしました。

今度は家徳公民館に移動して、お待ちかねのお弁当タイム。到着すると、桜が満開で迎えてくれました。桜の木の下にブルーシートを広げ、お花見をしながら食べました。みんなとてもよく遊んだので、食べることも食べることも。いっぱい作ってあったオニギリとおいなりは完売。

食後は、みんなで鬼ごっこやかくれんぼをやり、最後は桜の木の下で卒園児のK君を筆頭にダンス大会。遊び尽くしました。



翌日、最後の登園となった卒園児たち。帰りがけに「また遊びにおいで」と声を掛けると、「あー、そうだね。」とそっけない態度。まるで明日もまた来るんじゃないかと思うような錯覚を覚えるくらい、あっさりと帰っていきました。でも、そんなものです。それでよいのです。センチメンタルになるのは大人だけでいい。子ども達にはいつだって、前だけを見据えて生きていってほしいと思っています。

